

令和5年度京田辺市大学連携地域貢献研究事業実績報告書

●研究課題名 遊休農地を使用した市民参加型の自然栽培農法の実践

●研究者名 京都府立大学生命環境科学研究科 准教授 武田 征士

●研究期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

●研究の概要（背景・目的等）

【背景】遊休農地の増加、農業従事者の減少、食料自給率低下等の、農業・国内食料生産に関する問題がある。【目的】遊休農地を利用して、市民参加型の自然栽培体験会を実施し、市民の農・食への興味と知識を深め、また農業による健康増進を目的とする。

●研究の内容（方法・経過等）

京田辺市の遊休農地を使って市民参加型の自然栽培研究を実施する。月に1度（第3日曜日午前）に集まり、自然栽培や品種、種苗法等についてのミニセミナーと圃場での栽培実践を行う。

●これまで得られた研究の成果

京田辺市の普賢寺地区、小田垣内と口北谷の遊休農地を耕作し、一人1畝（およそ3～5メートル程度）を担当して農作物の栽培を行った。農薬・化学肥料無しでも野菜が育ち、収穫して食した市民からは「これでもじゅうぶん育つことに驚き」や、「驚くほど野菜の味が濃い」などの意見が寄せられた。

●具体的データ等

前期（4～9月）：17名参加、後期（10～3月）：16名参加

●研究を通じての自己評価

増え続ける遊休農地を、市民が参加する自然栽培圃場とすることで、農地有効活用、市民の健康増進、食材の知識・探求心が育まれた。機器・農薬・肥料を使わないため、子供でも気軽に参加でき、食育などにも有用であった。ミニセミナーでは市民から様々な質問が寄せられ、専門知識を踏まえつつ説明することで、農や食への理解がいっそう深まった。

●その他

今後の課題としては、遊休農地のロケーションによる交通手段やトイレの問題がある。今回は普賢寺ふれあいの駅の多大なる協力があって実施できた。このような、ハブとなる組織が中心となり、遊休農地を有効利用しながら、市民自らが自分の食を作る場が広がることを期待する。

●研究活動中の写真

